

平成 2 7 年度 第 2 回 荒川区清掃審議会

次 第

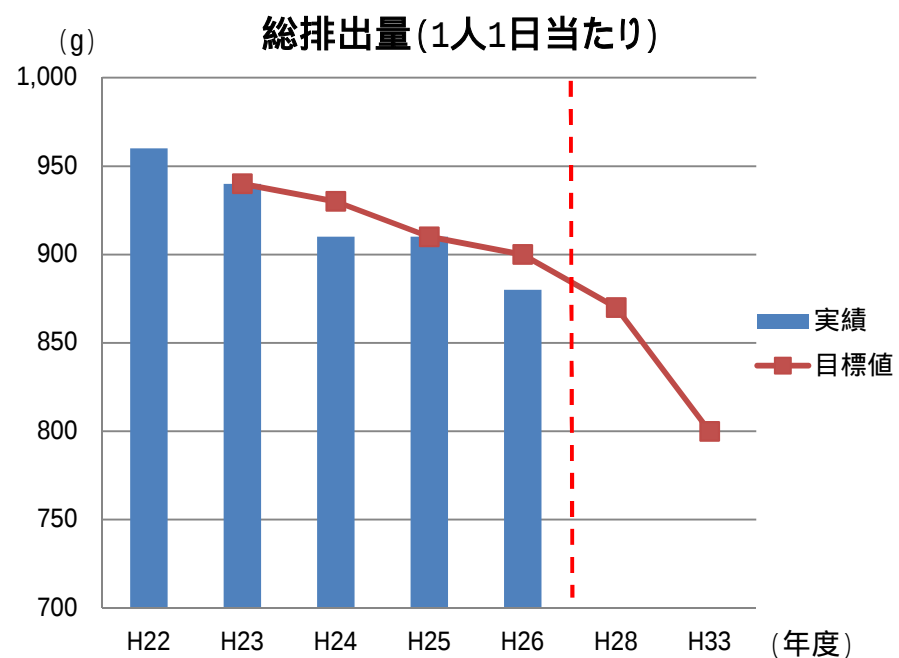
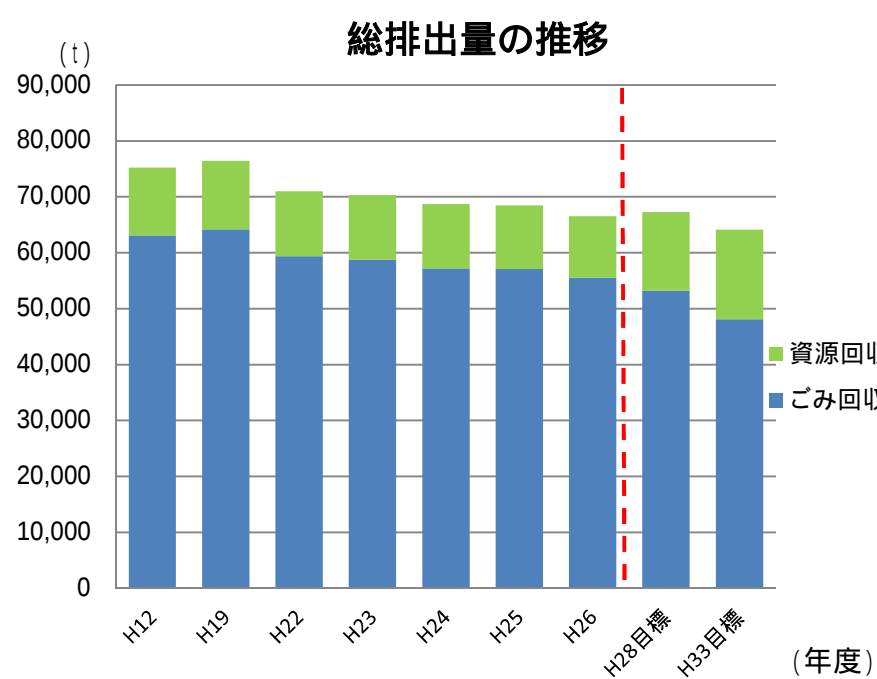
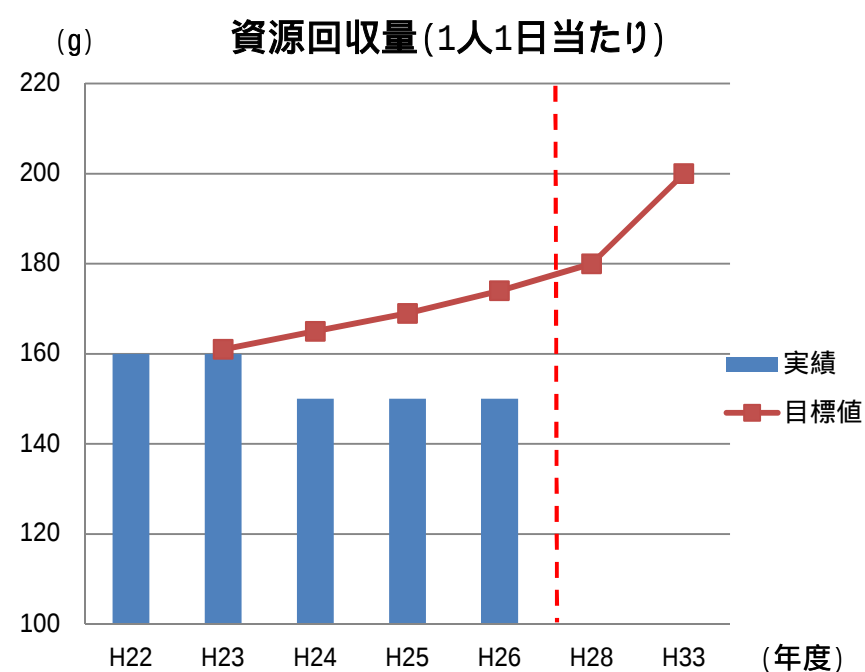
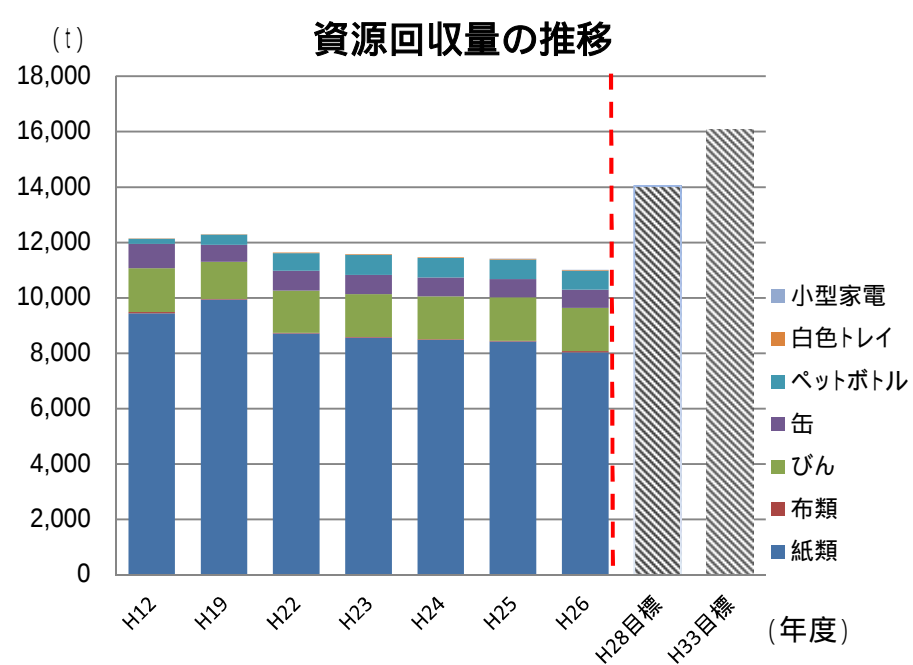
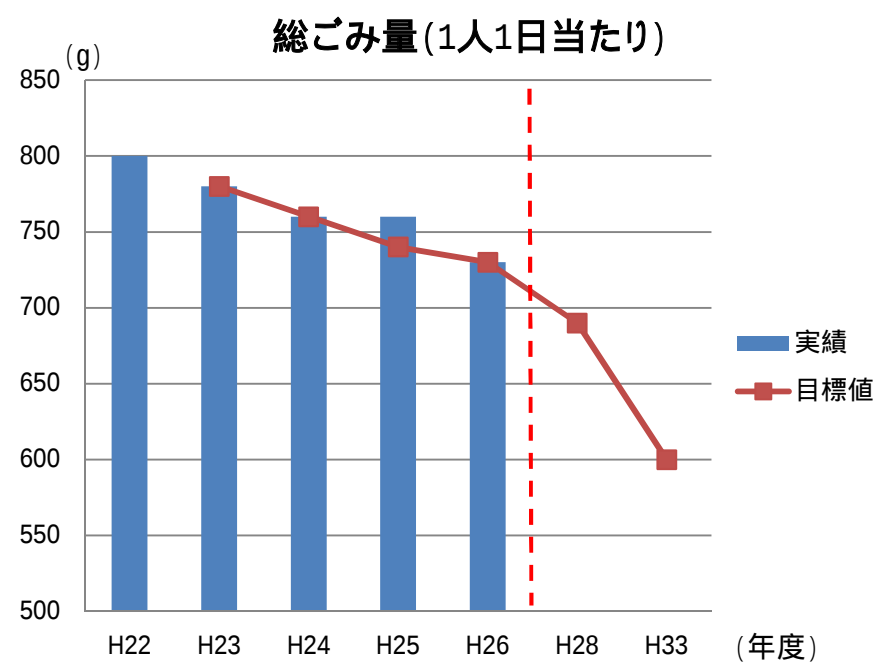
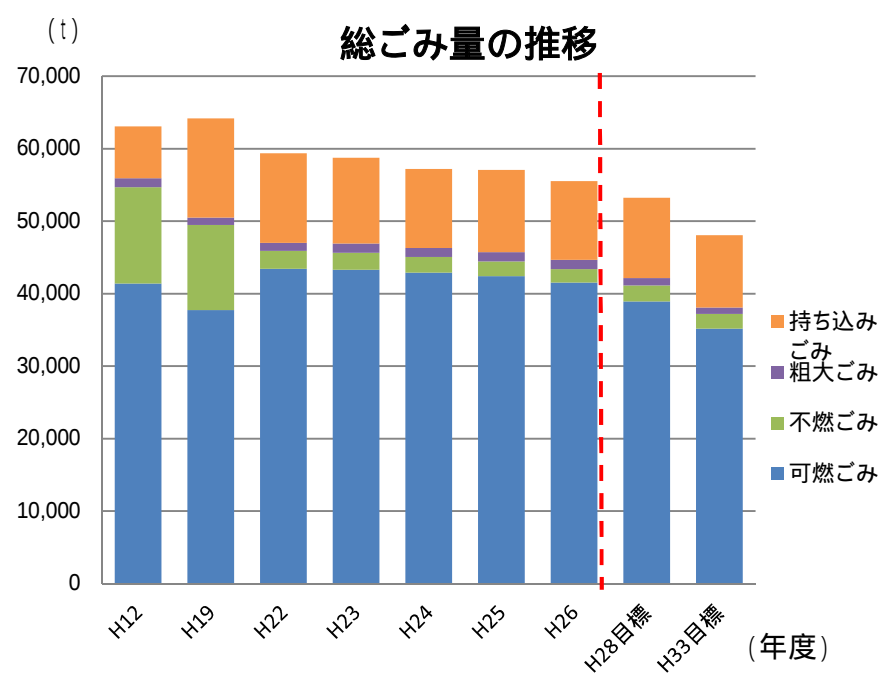
- 1 日 時 平成 2 7 年 1 1 月 2 5 日 (水)
 午前 1 0 時 0 0 分から 1 1 時 3 0 分まで (予定)
- 2 会 場 区役所北庁舎 1 階 1 0 1 会議室
- 3 次 第
 (1) 開会
 (2) 議事
 ・ 前回の審議内容の確認及び回答
 ・ 現状の課題整理及び見直しについて
 (3) 今後の予定
- 4 配付資料
 (1) 【資料 1】 総ごみ量・資源回収量・総排出量の推移及び目標・ P 1 ~ 2
 (2) 【資料 2】 古紙回収内訳 (年度別) ・ P 3
 (3) 【資料 3 - 1】 現状の施策取組の課題整理及び見直し
 生ごみ (厨芥類) の減量・ P 4 ~ 8
 (4) 【資料 3 - 2】 可燃ごみに含まれる紙類及び繊維類の資源回収・ . P 9 ~ 1 5
 (5) 【資料 3 - 3】 不燃ごみに含まれるびん・金属類等の資源回収・ . P 1 6 ~ 1 8
 (6) 【参考資料】 分類について・ P 1 9
 (7) 今後の予定・ P 2 0

総ごみ量・資源回収量・総排出量の推移及び目標

項目		単位	H12	H19	H22	H23	H24	H25	H26	H28	H33	
			実績							目標		
人口（4月1日現在）		人	180,900	194,002	203,713	205,263	205,947	206,794	207,652	211,851	219,957	
ごみ	区収集ごみ		t	55,936	50,510	47,031	46,901	46,312	45,750	44,686	42,150	38,084
		可燃ごみ	t	41,425	37,722	43,440	43,310	42,914	42,423	41,518	38,932	35,176
		不燃ごみ	t	13,258	11,755	2,485	2,350	2,147	2,042	1,889	2,227	2,012
		粗大ごみ	t	1,253	1,033	1,106	1,241	1,251	1,285	1,279	991	896
			g / 人・日	850	710	630	630	620	610	590	550	470
		増減量(g) (H22比)			—	0	▲ 10	▲ 20	▲ 40	▲ 80	▲ 160	
	持ち込みごみ	t	7,162	13,656	12,343	11,840	10,916	11,323	10,861	11,064	9,998	
		増減率(%) (H22比)			—	▲ 4	▲ 12	▲ 8	▲ 12	▲ 10	▲ 19	
	合計	t	63,098	64,166	59,374	58,741	57,229	57,072	55,546	53,214	48,082	
		g / 人・日	960	910	800	780	760	760	730	690	600	
		増減量(g) (H22比)			—	▲ 20	▲ 40	▲ 40	▲ 70	▲ 110	▲ 200	
		増減率(%) (H22比)			—	▲ 2	▲ 5	▲ 5	▲ 9	▲ 14	▲ 25	
資源	紙類		t	9,443	9,941	8,718	8,568	8,479	8,422	8,036	—	—
	布類		t	42	25	18	26	28	32	44	—	—
	びん		t	1,591	1,335	1,527	1,546	1,552	1,563	1,565	—	—
	缶		t	871	610	712	694	681	664	649	—	—
	ペットボトル		t	188	372	640	722	697	704	686	—	—
	白色トレイ		t	2	10	26	25	23	23	24	—	—
	小型家電		t	0	0	0	0	0	1	1	—	—
	合計	t	12,136	12,293	11,641	11,581	11,461	11,408	11,003	14,049	16,058	
		g / 人・日	180	170	160	160	150	150	150	180	200	
増減量(g) (H22比)				—	0	▲ 10	▲ 10	▲ 10	+20	+40		
総排出量	t	75,232	76,459	71,015	70,322	68,690	68,480	66,549	67,263	64,140		
	増減量(g) (H22比)			—	▲ 693	▲ 2,325	▲ 2,535	▲ 4,466	▲ 3,752	▲ 6,875		
	増減率(%) (H22比)			—	▲ 1	▲ 3	▲ 4	▲ 6	▲ 5	▲ 10		
	g / 人・日	1,140	1,080	960	940	910	910	880	870	800		
	増減量(g) (H22比)			—	▲ 20	▲ 50	▲ 50	▲ 80	▲ 90	▲ 160		
	増減率(%) (H22比)			—	▲ 2	▲ 5	▲ 5	▲ 8	▲ 9	▲ 17		
リサイクル率		%	16.1	16.1	16.4	16.5	16.7	16.7	16.5	21.0	25.0	

ごみ量及び資源回収量は小数点第一位を四捨五入する。ただし、資源の品目のうち、1t未満で回収実績があるものは小数点第一位を切り上げるものとする。

総ごみ量・資源回収量・総排出量の推移及び目標



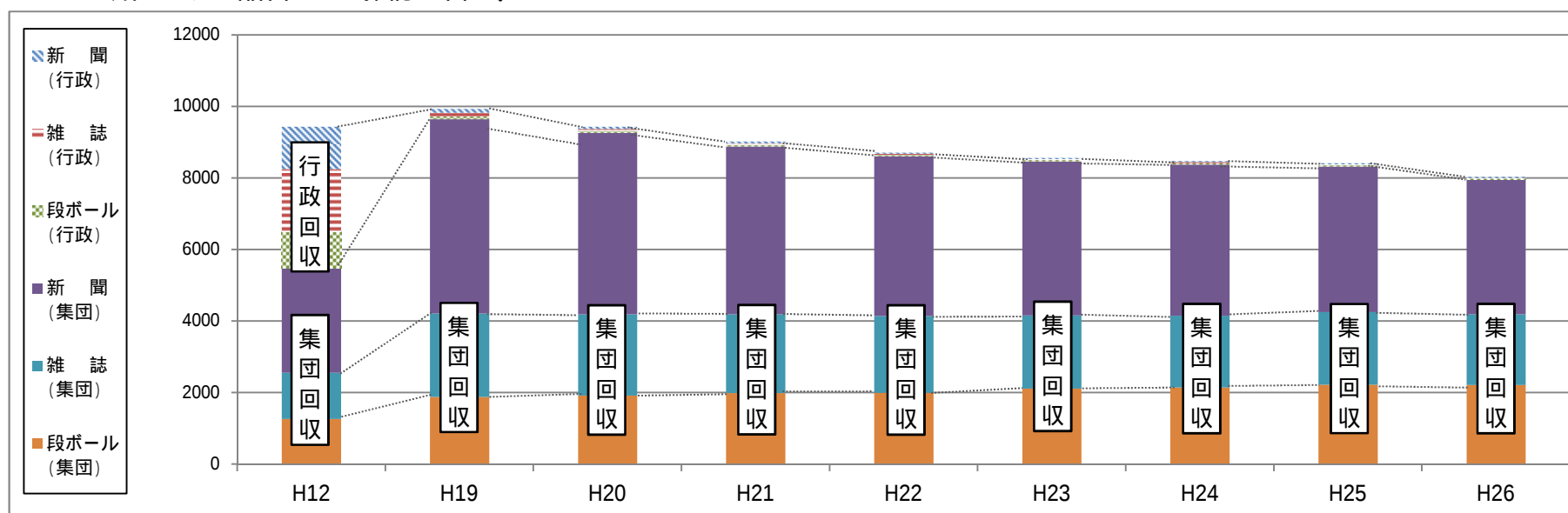
古紙回収内訳(年度別)

資料2

(単位: kg)

	内訳	H12年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
行政回収	新聞	1,185,280	114,120	60,010	48,195	35,005	30,680	29,995	30,215	25,110
	雑誌	1,771,200	95,890	52,880	40,355	30,145	32,115	30,135	27,395	27,005
	段ボール	1,005,340	83,510	57,490	46,525	40,230	38,455	36,900	34,855	32,365
	古紙合計	3,961,820	293,520	170,380	135,075	105,380	101,250	97,030	92,465	84,480
集団回収	新聞	2,920,510	5,428,458	5,072,330	4,695,645	4,469,080	4,301,695	4,228,670	4,071,515	3,755,900
	雑誌	1,293,560	2,338,398	2,272,964	2,204,720	2,149,815	2,050,215	2,007,420	2,031,860	1,980,125
	段ボール	1,266,642	1,880,827	1,922,315	1,987,360	1,994,155	2,114,925	2,146,275	2,225,745	2,215,000
	古紙合計	5,480,712	9,647,683	9,267,609	8,887,725	8,613,050	8,466,835	8,382,365	8,329,120	7,951,025
計	新聞	4,105,790	5,542,578	5,132,340	4,743,840	4,504,085	4,332,375	4,258,665	4,101,730	3,781,010
	雑誌	3,064,760	2,434,288	2,325,844	2,245,075	2,179,960	2,082,330	2,037,555	2,059,255	2,007,130
	段ボール	2,271,982	1,964,337	1,979,805	2,033,885	2,034,385	2,153,380	2,183,175	2,260,600	2,247,365
	古紙総合計	9,442,532	9,941,203	9,437,989	9,022,800	8,718,430	8,568,085	8,479,395	8,421,585	8,035,505

紙パックは品目として雑誌に含む。



現状の課題整理及び見直しについて

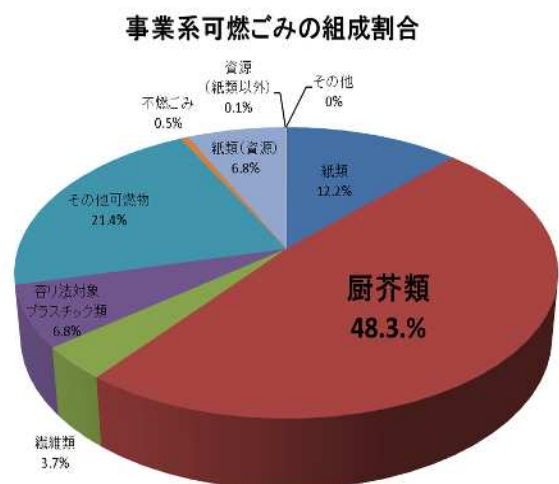
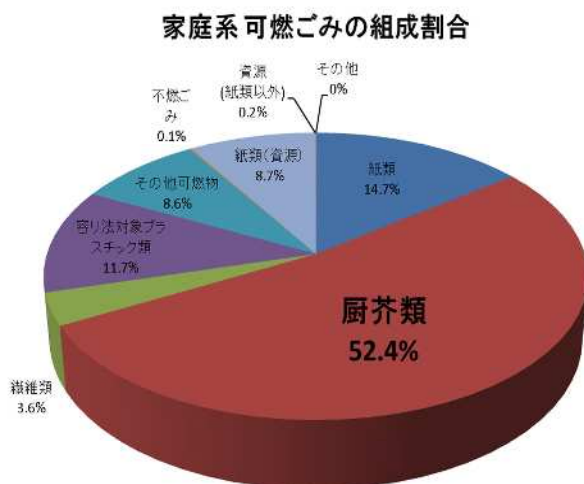
平成 27 年度第 1 回清掃審議会においてごみ減量に向けて挙げられた課題
(主要 3 項目)

1. 生ごみ（厨芥類）の減量
2. 可燃ごみに含まれる紙類及び繊維類の資源回収
3. 不燃ごみに含まれるびん・金属類等の資源回収

1. 生ごみ（厨芥類）の減量

(1) 家庭系・事業系可燃ごみに占める組成割合（平成 26 年度荒川区ごみ排出原単位等実態調査報告より）

家庭系・事業系共に、生ごみ（厨芥類）は、可燃ごみ中の約半数を占めており、生ごみ（厨芥類）の減量が課題となっている。



(2) 家庭系可燃ごみ厨芥類の排出分析

世帯人数別（1人世帯から5人以上世帯の5区分）

- ・厨芥類の排出量をみると、世帯人数が多くなるにつれて、一人当たりの排出量が減少している。
- ・厨芥類の排出量を比較すると、1人世帯は一人当たり260.9g、5人世帯以上は一人当たり140.9gであり、120gの差がある。
- ・厨芥類の内訳は「調理くず・残飯」と「未使用食品」となっているが、「調理くず・残飯」が厨芥類の排出の9割以上を占めている。

単位：g/人・日

世帯人数	1人	2人	3人	4人	5人以上	全体
世帯数	18	43	25	15	14	115
厨芥類	260.9	227.9	191.5	165.0	140.9	206.4
厨芥(未使用食品)	6.7	0.5	2.9	1.4	1.4	2.2
厨芥(調理くず、残飯)	254.2	227.3	188.6	163.5	139.5	204.1

住居形態別（戸建住宅、集合住宅、店舗併用の3区分）

- ・住居形態別で排出量を比較すると、戸建住宅の排出が210.7g、集合住宅が182.3g、店舗併用が231.3gであり、集合住宅の排出が少なくなっている。
- ・集合住宅と店舗併用を比較すると、49gの差がある。
- ・厨芥類の内訳は「調理くず・残飯」「未使用食品」であり、排出割合を見ると、どの住居形態でも9割以上が「調理くず・残飯」の排出である。

単位：g/人・日

住居形態	戸建住宅	集合住宅	店舗併用	全体
世帯数	68	30	17	115
厨芥類	210.7	182.3	231.3	206.4
厨芥(未使用食品)	1.5	4.4	1.5	2.2
厨芥(調理くず、残飯)	209.3	177.8	229.8	204.1

分類別

分類1	住居が多く人口密度が高く高齢者が多い地域
分類2	中高層住宅が多く、高齢者が少ない地域
分類3	戸建持家が多く、高齢者も多い地域

- ・分類別にみると、分類1が197.7g、分類2が238.5g、分類3が183.3gと分類2の排出が一番多くなっている。
- ・分類2の「未使用食品」排出量が4.0gであり、他の分類と比べて若干多くなっている。
- ・厨芥類の内訳の「調理くず・残飯」の排出が厨芥類の排出の9割以上を占めている。

単位：g/人・日

分類	分類1	分類2	分類3	全体
世帯数	46	36	33	115
厨芥類	197.7	238.5	183.3	206.4
厨芥(未使用食品)	1.8	4.0	0.9	2.2
厨芥(調理くず、残飯)	196.0	234.5	182.4	204.1

アンケート結果

- ・食品ロスについては、「家庭で食材や食品を食べられる（または食べられた）のに捨ててしまったことがあるかどうか」に対して、「よく捨てる（2.6%）」、「時々捨てる（35.3%）」、「あまり捨てない（45.1%）」、「捨てたことはない（16.2%）」がとなっており、捨てたことのある区民は83.0%となっている。

選択肢	回答数	割合
あまり捨てない	106	45.1%
時々捨てる	83	35.3%
捨てたことはない	38	16.2%
よく捨てる	6	2.6%
その他	2	0.8%
合計	235	100.0%

- ・食材や食品を捨てた理由（複数回答）については、高い順に「腐ってしまった・カビがはえた（64.1%）」、「賞味・消費期限がきれた（62.1%）」、「おなかがいっぱいで食べきれなかった（11.8%）」、「料理に使う予定がなくなってしまった（7.2%）」、「食べたくなかった（6.7%）」となっている。

選択肢(複数回答)	回答数	割合
腐ってしまった、カビがはえた	125	64.1%
賞味・消費期限がきれたから	121	62.1%
おなかがいっぱいで食べきれなかったから	23	11.8%
料理に使う予定がなくなってしまったから	14	7.2%
食べたくなかったから	13	6.7%
その他	5	2.6%
全体	195	154.4%

- ・食べないで捨てたことのある食材や食品（複数回答）については、高い順に「野菜（66.7%）」、「家庭で調理した料理（58.5%）」、「肉魚類（26.2%）」、「果物（20.0%）」が、「お惣菜・パン（19.5%）」、「お菓子類（10.8%）」となっている。

選択肢(複数回答)	回答数	割合
野菜	130	66.7%
家庭で調理した料理	114	58.5%
肉魚類	51	26.2%
果物	39	20.0%
お惣菜	38	19.5%
パン	38	19.5%
お菓子類	21	10.8%
その他	123	63.0%
全体	195	221.0%

- ・今後の暮らしの工夫によって「減らせる」と思えるもの（複数回答）については、「賞味期限切れの食品（60.0%）」、「残飯等の食べ残し（59.6%）」、「調理くず（31.1%）」となっている。

選択肢(複数回答)	回答数	割合
賞味期限切れの食品	141	60.0%
食べ残し(残飯など)	140	59.6%
レジ袋	115	48.9%
調理くず	73	31.1%
紙容器、紙袋や包装紙	44	18.7%
プラスチック容器、包装	41	17.4%
ペットボトル	31	13.2%
粗大ごみ	30	12.8%
その他	167	71.3%
全体	235	333.0%

- ・生ごみを捨てるときに水を切り、ひと絞りしてから出しているかについては、「いつもそうしている（62.6%）」、「時々そうしている（25.7%）」、「あまりそうしていない（7.8%）」、「していない（3.9%）」となっており、9割近い区民が水切りを実施している。

選択肢	回答数	割合
いつもそうしている	144	62.6%
時々そうしている	59	25.7%
あまりそうしていない	18	7.8%
していない	9	3.9%
合計	230	100.0%

- ・生ごみ処理機・処理容器についての使用状況については「使用していて、今後も続ける(2.6%)」「使用したことがあるがやめた（2.1%）」となっており、使用したことの区民は5%弱で、さらに半数が使用をやめている。
また、生ごみ処理機・処理容器を「まだ使用していないが、今後使用してみたい（44.7%）」がある一方、「まだ使用していないが、今後も使用する気はない（48.5%）」との回答もあった。

選択肢	回答数	割合
まだ使用していないが、今後も使用する気はない	114	48.5%
まだ使用していないが、今後使用してみたい	105	44.7%
使用していて、今後も続ける	6	2.6%
使用したことがあるがやめた	5	2.1%
無回答	5	2.1%
合計	235	100.0%

(3) 事業系可燃ごみ厨芥類の排出分析

業種別（建設業、製造業、卸売・小売業、不動産業、飲食・宿泊業
医療・福祉、サービス業の 7 業種）

- ・業種別にみると、飲食・宿泊業の排出が 2,101.7 g と一番多く、二番目が卸売・小売業の 1,226.6 g で、特にこれらの業種の排出削減を図ることが重要である。
- ・厨芥類の内訳である「未使用食品」の排出が、飲食・宿泊業及び医療・福祉では排出なしであったが、卸売・小売業では 85.8 g の排出があった。

単位：g/事業所・日

業種	建設業	製造業	卸売・小売業	不動産業	飲食・宿泊業	医療・福祉	サービス業	全体
事業所数	10	21	35	6	14	7	20	113
厨芥類	427.1	193.3	1,226.6	365.4	2,101.7	234.8	359.4	811.6
厨芥(未使用食品)	10.1	3.5	85.8	8.0	0	0	1.5	28.8
厨芥(調理くず、残飯)	416.9	189.8	1,140.8	357.3	2,101.7	234.8	357.9	782.8

アンケート結果

- ・厨芥類の処理方法については、業者に費用を払って処理が 16.9%、区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出が 27.7% であった。

	業者に費用を払って処理	区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出	区のごみ収集にごみ処理券を貼らずに排出	自社で処理施設に持ち込む	出ない（排出されない）	無回答・その他	合計
厨芥類	16.9%	27.7%	14.9%	0.4%	23.1%	16.9%	100.0%

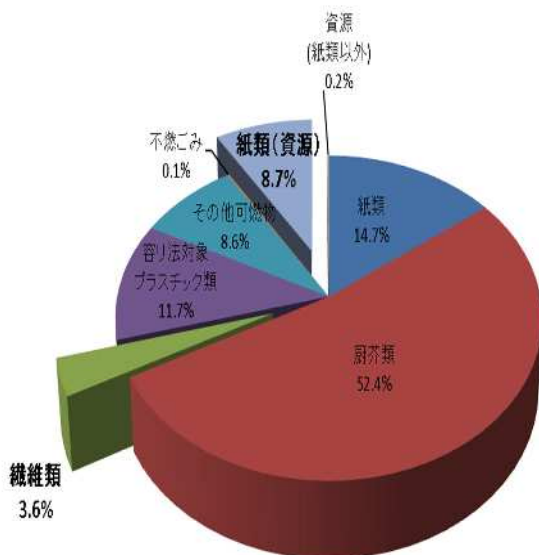
2. 可燃ごみに含まれる紙類及び繊維類の資源回収

(1) 家庭系・事業系可燃ごみに占める組成割合（平成 26 年度荒川区ごみ排出原単位等実態調査報告より）

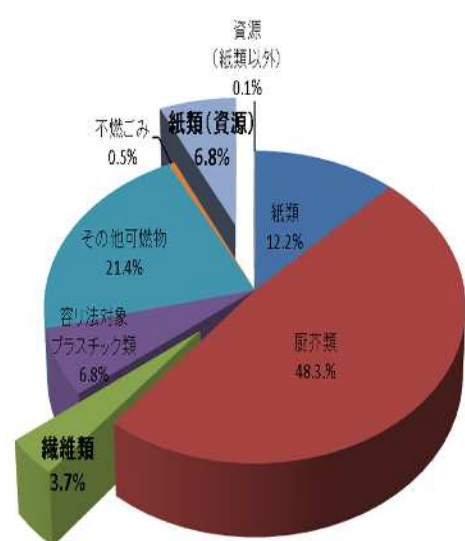
家庭系・事業系共に、可燃ごみに含まれる紙類（資源）及び繊維類は合計で 10 % を超えている。

特に、家庭系の紙類（資源）は、8.7 % と高い割合を示している。

家庭系 可燃ごみに占める繊維類及び紙類（資源）の割合



事業系 可燃ごみに占める繊維類及び紙類（資源）の割合



(2) 家庭系可燃ごみ紙類(資源)の排出分析

世帯人数別

- ・可燃ごみに含まれる紙類(資源)の割合は、二人世帯が 38.2 g と一番多く、5人以上世帯が 27.1 g と一番少ない。
- ・紙類(資源)の内訳を見ると、ほとんどの世帯で「紙製容器包装類」が一番多く排出されている。二番目に多いのは「新聞等」である。

単位：g/人・日

世帯人数	1人	2人	3人	4人	5人以上	全体
世帯数	18	43	25	15	14	115
紙類(資源)	35.0	38.2	31.3	32.5	27.1	34.1
新聞等	6.6	10.9	6.2	6.7	6.1	8.0
雑誌	12.2	7.1	4.5	4.4	5.2	6.7
段ボール	2.7	4.3	3.5	5.6	3.4	3.9
飲料用紙パック	2.2	3.9	4.2	3.4	3.4	3.5
紙製容器包装類	11.3	12.2	12.9	12.5	9.0	11.8

住居形態別

- ・紙類(資源)の排出を見ると、戸建住宅が 34.1 g、集合住宅が 30.7 g、店舗併用が 40.3 g と店舗併用が一番多い。
- ・紙類(資源)の内訳を見ると、ほとんどの住居形態で、「紙製容器包装類」が一番多く排出されている。

単位：g/人・日

住居形態	戸建住宅	集合住宅	店舗併用	全体
世帯数	68	30	17	115
紙類(資源)	34.1	30.7	40.3	34.1
新聞等	8.8	6.4	7.9	8.0
雑誌	4.5	11.6	7.3	6.7
段ボール	5.2	1.1	3.9	3.9
飲料用紙パック	3.9	1.6	5.6	3.5
紙製容器包装類	11.7	10.0	15.7	11.8

分類別

分類 1	住居が多く人口密度が高く高齢者が多い地域
分類 2	中高層住宅が多く、高齢者が少ない地域
分類 3	戸建持家が多く、高齢者も多い地域

- ・紙類(資源)の排出は、分類 1 が 33.7 g、分類 2 が 32.3 g、分類 3 が 36.7 g と分類 3 が一番多くなっている。
- ・紙類(資源)の内訳を見ると、分類 2 以外では「紙製容器包装類」が一番多く排出されており、分類 2 では「新聞等」の排出が 13.5 g と一番多く排出されている。

単位：g/人・日

分類	分類1	分類2	分類3	全体
世帯数	46	36	33	115
紙類(資源)	33.7	32.3	36.7	34.1
新聞等	5.8	13.5	5.2	8.0
雑誌	8.0	3.5	8.5	6.7
段ボール	4.2	1.9	5.8	3.9
飲料用紙パック	3.7	2.1	4.9	3.5
紙製容器包装類	12.1	11.2	12.2	11.8

アンケート結果

- ・町会等の集団回収に出している割合が高いのは「段ボール(75.7%)」、「雑誌(72.3%)」、「新聞紙(63.4%)」である。逆に割合が低いのは、「飲料用紙パック(30.6%)」、「紙製容器包装(34.5%)」となっている。なお、飲料用紙パックについては、集団回収以外の「小売店店頭回収ボックスに入れる(12.8%)」を含めると、約4割の区民が資源回収に出している。
- ・紙類を分別せずに、可燃ごみとして出している割合がそれぞれ「新聞(9.8%)」、「雑誌(14.5%)」と約1割前後であるのに対し、「飲料用紙パック(43.4%)」、「紙製容器包装(58.3%)」と非常に高い。

	又は 可燃ごみ 保管場所 として出 す集積所	又は 不燃ごみ 保管場所 として出 す集積所	町会等 の集団回 収に出	小売店 店頭回収 ボックス	業者の 回収に出	フリーマ ーケット・ 店や他 の人に 売却また は譲る	出ない (排出さ れない)	無回答	合計
新聞紙	9.8%	2.6%	63.4%	0.0%	3.8%		17.0%	3.0%	100.0%
雑誌	14.5%	2.6%	72.3%	0.0%	1.7%	0.4%	4.7%	3.8%	100.0%
段ボール	13.6%	3.8%	75.7%	0.0%	1.3%		1.7%	3.8%	100.0%
飲料用紙パック	43.4%	3.0%	30.6%	12.8%	2.6%		1.7%	4.7%	100.0%
紙製容器包装	58.3%	2.1%	34.5%	0.4%	0.0%		0.0%	4.7%	100.0%
書籍	10.6%	3.0%	61.3%	0.0%	2.6%	9.8%	6.4%	6.4%	100.0%

- ・今後、資源の回収品として追加したほうがいいと思うもの(複数回答)について、「コピーや印刷用の紙(8.1%)」、「紙製容器包装マークのついた製品(29.8%)」と回答しており、紙製容器包装マークの付いた製品については約3割、コピー用紙については1割弱の区民が、資源として回収していることを知らない現状である。

選択肢(複数回答)	回答数	割合
充電式電池	96	40.9%
蛍光灯	75	31.9%
紙製容器包装マークのついた製品	70	29.8%
ペットボトルのキャップ	48	20.4%
プラスチック製容器包装マーク	41	17.4%
古布(衣類・布類等)	40	17.0%
硬質プラスチック(ハンガー・洗面器等)	35	14.9%
家電製品(エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機・パソコンを除く)	33	14.0%
廃食用油(使用後の天ぷら油等)	30	12.8%
コピーや印刷用の紙	19	8.1%
その他	28	11.9%
全体	235	219.0%

(3) 事業系可燃ごみ紙類(資源)の排出分析

業種別

- ・業種別に見ると、建設業の排出が 166.4 g と一番多く、二番目が卸売・小売業の 161.4 g となっている。
- ・紙類(資源)の混入量が一番少ないのは、医療・福祉の 50.1 g である。
- ・紙類(資源)の内訳を見ると、ほとんどの業種で「段ボール」と「紙製容器包装類」の排出量が多くなっている。割合としては「段ボール」の排出量が一番多くなっている。

単位：g/事業所・日

業種	建設業	製造業	卸売・小売業	不動産業	飲食・宿泊業	医療・福祉	サービス業	全体
事業所数	10	21	35	6	14	7	20	113
紙類(資源)	166.4	76.6	161.4	104.9	63.0	50.1	107.5	114.5
新聞等	31.2	4.4	26.5	30.8	2.2	4.9	12.2	16.1
雑誌	5.7	19.5	13.2	17.5	0.0	0.0	6.3	10.3
段ボール	88.2	24.3	68.4	17.9	37.9	5.0	36.5	45.9
飲料用紙パック	8.9	0.7	5.9	7.8	9.8	11.7	7.6	6.4
紙製容器包装類	32.5	27.8	47.5	30.9	13.1	28.6	45.0	35.7

アンケート結果

- ・処理方法については、区のごみ収集にごみとして排出が 8.3～19.8%であった。

	業者に費用を払って処理	業者に売却	業者に無料で引き渡し	納入業者に引き渡し（返却）	区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出	区のごみ収集にごみ処理券を貼らずに排出	区の資源回収にごみ処理券を貼って排出	区の資源回収にごみ処理券を貼らずに排出	自社で処理施設に持ち込む	小売店店頭の回収ボックスに出す	出ない（排出されない）	無回答・その他	合計
新聞紙	13.2%	3.7%	7.4%	0.4%	5.4%	5.4%	1.2%	26.0%	1.7%	0.0%	19.0%	16.1%	100.0%
雑誌	13.6%	3.3%	7.0%	0.0%	5.0%	5.8%	4.1%	24.8%	1.2%	0.4%	18.6%	16.1%	100.0%
段ボール	14.5%	4.5%	14.5%	3.7%	5.8%	5.8%	3.3%	28.5%	2.5%	0.0%	5.0%	11.6%	100.0%
飲料用紙パック	12.0%	0.4%	2.9%	0.0%	7.0%	6.2%	0.8%	14.0%	0.8%	2.9%	34.7%	18.2%	100.0%
紙製容器包装	15.3%	2.5%	7.9%	1.2%	13.2%	6.6%	1.7%	19.4%	0.4%	0.8%	14.9%	16.1%	100.0%
書籍	14.5%	3.3%	6.6%	0.0%	3.3%	5.0%	2.9%	21.5%	0.8%	0.4%	21.9%	19.8%	100.0%

（４）家庭系可燃ごみ繊維類の排出分析

世帯人数別

- ・繊維類の排出を見ると、世帯人数の変化により増減の傾向は見られないが、2人世帯のみ他の世帯と比べて多い。
- ・2人世帯の一人当たりの排出量は 25.8 g であり、他の世帯の排出量は 7.0 g ～ 7.5 g である。

単位：g/人・日

世帯人数	1人	2人	3人	4人	5人以上	全体
世帯数	18	43	25	15	14	115
繊維類	7.4	25.8	7.5	7.5	7.0	14.3

住居形態別

- ・繊維類の排出を住居形態でみると、戸建住宅が 16.1 g、集合住宅が 11.6 g、店舗併用が 11.5 g と戸建住宅が若干多くなっている。

単位：g/人・日

住居形態	戸建住宅	集合住宅	店舗併用	全体
世帯数	68	30	17	115
繊維類	16.1	11.6	11.5	14.3

分類別

分類 1	住居が多く人口密度が高く高齢者が多い地域
分類 2	中高層住宅が多く、高齢者が少ない地域
分類 3	戸建持家が多く、高齢者も多い地域

- ・繊維類の排出は、分類 1 が 5.7 g、分類 2 が 13.7 g、分類 3 が 26.9 g と分類 3 の排出が一番多くなっている。
- ・分類 1 と分類 3 の排出量を比較すると、21.2 g の差がある。

単位：g/人・日

分類	分類1	分類2	分類3	全体
世帯数	46	36	33	115
繊維類	5.7	13.7	26.9	14.3

アンケート結果

- ・古布については、74.0%の区民が可燃ごみとして出している。
繊維類（古布）については、平成 23 年度より集合住宅や一部の町会等で資源回収をモデル事業で実施してきた。平成 27 年度からは、区のリサイクル推進団体として登録している集合住宅で古布回収を開始した。

	又は可燃ごみと 保管場所として 出す集積所	又は不燃ごみと 保管場所として 出す集積所	小売店店頭 の回収ボツ	購入した お店に返却 する	業者の 回収に出す	その他（フリー マーケット・店 や他の人に 売却または 譲る）	出ない （排出され ない）	無 回 答	合 計
古布	74.0%	3.0%	0.4%	0.0%	2.1%	7.2%	3.8%	7.7%	100.0%

- ・今後、資源の回収品として追加したほうがいいと思うもの（複数回答）について、古布は 17.0%となっている。

選択肢(複数回答)	回答数	割合
充電式電池	96	40.9%
蛍光管	75	31.9%
紙製容器包装マークのついた製品	70	29.8%
ペットボトルのキャップ	48	20.4%
プラスチック製容器包装マーク	41	17.4%
古布(衣類・布類等)	40	17.0%
硬質プラスチック(ハンガー・洗面器等)	35	14.9%
家電製品(エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機・パソコンを除く)	33	14.0%
廃食用油(使用後の天ぷら油等)	30	12.8%
コピーや印刷用の紙	19	8.1%
その他	28	11.9%
全体	235	219.0%

(5) 事業系可燃ごみ繊維類の排出分析

業種別

- ・ 製造業、卸売・小売業、飲食・宿泊業の排出量が 90 g 前後であり、建設業が 7.0 g、医療・福祉が 4.5 g と排出量が少ない。

単位：g/事業所・日

業種	建設業	製造業	卸売・小売業	不動産業	飲食・宿泊業	医療・福祉	サービス業	全体
事業所数	10	21	35	6	14	7	20	113
繊維類	7.0	97.9	85.3	22.2	91.2	4.5	25.7	62.6

アンケート結果

- ・ 処理方法については、業者に費用を払って処理が 12.8%、区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出が 8.7%であった。

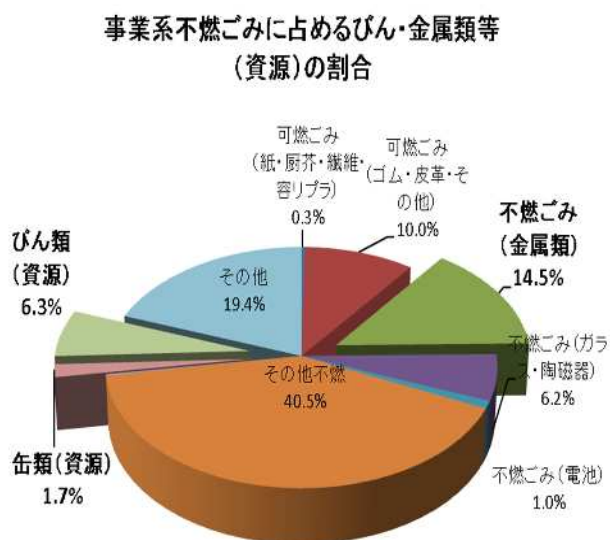
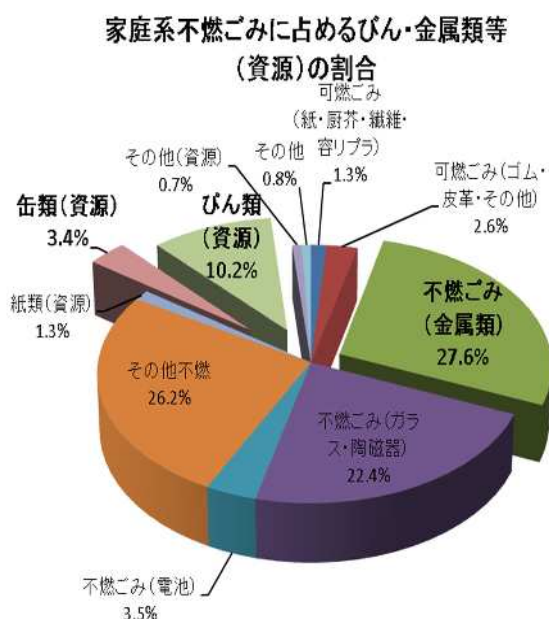
	業者に費用を払って処理	業者に売却	業者に無料で引き渡し	区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出	区のごみ収集にごみ処理券を貼らずに排出	区の資源回収にごみ処理券を貼って排出	区の資源回収にごみ処理券を貼らずに排出	自社で処理施設に持ち込む	出ない（排出されない）	無回答・その他	合計
古布	12.8%	0.4%	2.1%	8.7%	11.2%	0.0%	2.9%	0.8%	40.9%	20.2%	100.0%

3. 不燃ごみに含まれるびん・金属等(飲食用びん・飲食用缶等)の資源回収

(1) 家庭系・事業系不燃ごみに占める組成割合(平成26年度荒川区ごみ排出原単位等実態調査報告より)

飲食用びん類及び飲食用缶類については、本来は資源として回収(家庭系は町会等の集団回収・事業系は事業系資源として有料で行政回収若しくは事業者の責任により回収)されるべきものであるが、不燃ごみに含まれるびん・金属等のうち、びん類(資源)及び缶類(資源)については、家庭系で13.6%、事業系で8.0%を占めているため、更なる分別の徹底を図る必要がある。

また、現時点で不燃ごみとして回収している金属類(鍋など)についても、家庭系で27.6%、事業系で14.5%を占めており、新たな資源回収の対象として検討する必要がある。



(2) 家庭系不燃ごみ金属類の排出分析

世帯人数別

- ・世帯人数別での金属類の排出を見ると、世帯人数が多くなるにつれて、一人当たりの排出量は減少している。
- ・1人世帯の排出が 18.6 g と一番多く、5 人世帯以上の排出が 2.6 g と一番少ない。

単位：g/人・日

世帯人数	1人	2人	3人	4人	5人以上	全体
世帯数	18	43	25	15	14	115
金属類	18.6	15.0	5.8	5.4	2.6	10.8

住居形態別

- ・住居形態別にみると、どの住居形態でも排出が 10 g 前後となっている。

単位：g/人・日

住居形態	戸建住宅	集合住宅	店舗併用	全体
世帯数	68	30	17	115
金属類	10.9	11.5	9.4	10.8

分類別

分類 1	住居が多く人口密度が高く高齢者が多い地域
分類 2	中高層住宅が多く、高齢者が少ない地域
分類 3	戸建持家が多く、高齢者も多い地域

- ・金属類の排出は、分類 1 が 12.4 g、分類 2 が 11.0 g、分類 3 が 8.4 g と分類 3 の排出が若干少ない。

単位：g/人・日

分類	分類1	分類2	分類3	全体
世帯数	46	36	33	115
金属類	12.4	11.0	8.4	10.8

アンケート調査

- ・飲食用びん・缶を不燃ごみとして出す割合は、「ビールびん・一升びん(11.1%)」、「その他の飲料用びん(14.5%)」、「アルミ缶(11.9%)」、「スチール缶(13.6%)」となっており、びん・缶を資源に出さず不燃ごみとして出す割合は、11.1%～14.5%と高い。

	又は可燃ごみとして出す集積所	又は不燃ごみとして出す集積所	町会等の集団回収に出す	小売店・店頭での回収ボックスに出す	購入したお店に返却する	業者の回収に出す	出ない（排出されない）	無回答	合計
アルミ缶	2.6%	11.9%	80.0%	1.3%	0.0%	0.4%	0.4%	3.0%	100.0%
スチール缶	3.0%	13.6%	76.6%	1.7%	0.0%	0.4%	0.9%	3.8%	100.0%
ビールびん・一升びん	2.1%	11.1%	67.7%	0.0%	2.1%	0.9%	12.8%	3.4%	100.0%
その他の飲料びん	1.7%	14.5%	72.3%	0.9%	0.0%	0.4%	3.8%	6.4%	100.0%

アンケート調査（自由意見欄）

びん類については、分別に迷っている区民の声がある。

（区民の声）

- ・佃煮が入っていたびんは資源に出すか不燃物として出すかいつも迷う。飲料びんは資源に、佃煮等が入っていたびんは不燃ごみとして出している（空き缶の回収も同様）。回収品の細かいリストが欲しい。

（３）事業系不燃ごみ金属類の排出分析

業種別

- ・金属類の排出量が多いのが飲食・宿泊業の 45.3 g と卸売・小売業の 42.3 g であり、排出量が少ないのが医療・福祉の 3.1 g である。不動産業に関しては排出がなかった。

単位：g/事業所・日

業種	建設業	製造業	卸売・小売業	不動産業	飲食・宿泊業	医療・福祉	サービス業	全体
事業所数	10	21	35	6	14	7	20	113
金属類	11.0	11.2	42.3	0	45.3	3.1	23.9	26.2

アンケート調査

- ・びん類及缶類を分別せず、区のごみ収集にて排出している割合は、「ビールびん・一升びん(9.1%)」、「その他飲料びん(10.3%)」、「スチール缶(13.2%)」、「アルミ缶(12.4%)」となっている。

	業者に費用を払って処理	業者に売却	業者に無料で引き渡し	納入業者に引き渡し（返却）	区のごみ収集にごみ処理券を貼って排出	区のごみ収集にごみ処理券を貼らずに排出	区の資源回収にごみ処理券を貼って排出	区の資源回収にごみ処理券を貼らずに排出	自社で処理施設に持ち込む	小売店店頭回収ボックスに出す	出ない（排出されない）	無回答・その他	合計
アルミ缶	12.4%	1.2%	3.7%	3.3%	4.5%	7.9%	2.1%	30.2%	1.7%	5.8%	14.9%	12.0%	100.0%
スチール缶	12.8%	0.8%	3.7%	2.9%	5.8%	7.4%	1.7%	28.5%	1.7%	5.4%	16.1%	12.8%	100.0%
ビールびん・一升びん	7.9%	0.8%	2.9%	5.0%	4.1%	5.0%	1.7%	22.3%	1.2%	2.5%	34.3%	12.0%	100.0%
その他飲料びん	9.9%	1.2%	2.5%	3.7%	4.5%	5.8%	1.7%	24.0%	0.8%	4.5%	24.8%	16.1%	100.0%

分類について

調査地域の選定は、東京二十三区清掃一部事務組合の分類分析を参考にして、区内を分類した。

区内の街区状況や町丁別、年代別の人口統計を調べ、地域の特性及び住居形態、世帯人数、世帯構成員、年齢層等の割合に準じ、代表的な地区を選び調査協力依頼を行った。

荒川区の生活形態に着目した分類別地域

分類	概要	該当する代表的な丁目
分類 1	住居が多く人口密度が高く、高齢者も多い地域	南千住 1丁目、2丁目、5丁目 西日暮里 4丁目、5丁目、6丁目 町屋 1丁目、2丁目、3丁目 西尾久 1丁目、2丁目、3丁目
分類 2	中高層住宅が多く、高齢者が少ない地域	東日暮里 1丁目、2丁目、3丁目 南千住 3丁目、7丁目、8丁目 町屋 5丁目、6丁目、7丁目
分類 3	戸建持家が多く、高齢者も多い地域	東尾久 5丁目、6丁目、8丁目 南千住 6丁目 荒川 8丁目

今後の予定

昨年度開催日程

26年度		
1	平成27年 3月16日 開催	・会長及び副会長の選任 ・荒川区の清掃・リサイクル事業の現状 ・荒川区一般廃棄物処理基本計画の進捗状況 ・今後の予定

今後の開催予定

27年度		
1	平成27年 8月3日 開催	・新委員の紹介 ・諮問（荒川区一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について） ・前回の審議内容の確認及び回答 ・ごみ排出原単位等実態調査の結果について ・荒川区一般廃棄物処理基本計画の施策の分析について ・（仮称）荒川区リサイクルセンター整備状況について
2	平成27年 11月25日 開催	・前回の審議内容の確認及び回答 ・現状の課題整理及び見直し
3	2月	・前回の審議内容の確認及び回答 ・一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について（骨子たたき台）

28年度		
1	5月	・一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について（素案）
2	8月	・一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について（答申案） ・（仮称）荒川区リサイクルセンター建設工事進捗状況視察
3	10月	・一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について（答申）
4	12月	・委員の任期満了に基づく委嘱並びに新会長及び副会長選任 ・一般廃棄物処理基本計画の見直しに関する基本的な考え方について（答申）予備